

カテゴリー

神経系

タイトル

pusher behaviour における治療介入の即時効果

Immediate effectiveness of single-session therapeutic interventions in pusher behaviour.PubMed Krewer C et al.(2012)

なぜこの論文を読もうと思ったのか？

- ・ lateropulsion に興味があり、その本質を問いたいと思ったため。学習の一助として本論部に至る。

内 容

背景/目的

・片麻痺を有する脳卒中者の一部は、『pusher behaviour』を示します。非麻痺側の押す動作が見られ麻痺側に傾きます。これにより、座位・立位における姿勢バランスを損います。pusher behaviour は、患者のリハビリを妨げる要素となり得ます。

・いくつかの治療戦略が試されており、本研究では galvanic vestibular stimulation (GVS)・Hocoma の Lokomat を用いた免荷歩行訓練装置・視覚フィードバックを用いた理学療法 (PT-vf) の即時後効果を調べた。

方法

・15人の pusher behaviour を有する患者と10人の non-pusher 患者が参加した。GVS は tDCS を使用し、車椅子上で実施している。

・患者は、介入の単一セッションの直前・直後に the scale for contraversive pushing (SCP) および Burke lateropulsion scale (BLS) のスケールで測定した。

結果

・PT-vf と比較し、Lokomat は pusher behaviour 患者の BLS に対して有意な効果を有したが SCP の値に有意な効果は示さなかった。

- ・GVS はいずれのスケールの値においても有意な影響を及ぼさなかった。

・ BLS はより小さな変化を検出するために SCP より有用である。

・ 歩行中に直立姿勢を強制的に制御することは、麻痺によって崩れた垂直性の感覚を再学習するため、脳卒中者の pusher behaviour を即座に減少させるのに有効な方法であると思われる。しかし、この知見において長期的効果は示されていない。

私見・明日への臨床アイデア

・ lateropulsion に対して陰極を乳様突起として Intellect Advanced Combo にて閉眼閉脚立位で運動療法実施前に刺激した例では立位バランスの能力の改善を示しており、別法であれば反応は違う可能性がある。患者自身が車椅子など安定した環境や開眼していたり補償が利く状態では、その知覚を減じやすいと思われる。しかし、そもそも lateropulsion という同じ言葉でも脳損傷部位によって原因が異なり反応は異なると思われる。

・ 今回の治療の中では、装置により適切な姿勢、適負荷に調整された環境下で、他の訓練より良好な感覚を取り入れた Lokomat が一番反応が良かったと思われる。

氏名 shuichi kakusho

職種 理学療法士
